

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	41	学校名	可児高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	豊かな人材の輩出と、高い進路目標の実現を目指す高校として 確かな学力の修得と主体的な活動を通して 多様な社会を支えるリーダーの育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来を主体的に考え、高い志と向上心をもって行動できる生徒 ・高い倫理観を身につけ、他者を尊重し協働できる生徒 ・豊かなコミュニケーション能力を備え、リーダーシップを発揮できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な教科指導と探究的な学びで基礎学力と主体的学習姿勢を育成 ・規範意識向上の取り組みや学校行事を通じて社会性と人間性を育成 ・特別活動行事や部活動を通してコミュニケーション能力とリーダーシップを養成
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・真摯に学習に取り組み、自ら可能性を伸ばそうとする意欲的な生徒 ・コミュニケーションを大切にし、公正さと正義感を合わせもつ生徒 ・地域や国際社会で活躍したいと望む生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領で求められる学力の育成、大学入試の多様化への対応 命を尊重し、倫理観や規範意識を育む教育活動の工夫 ・学校の教育方針や教育活動の情報発信・広報活動の充実 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	・探究的な学びを取り入れ、知識・技能の習得だけでなく、粘り強く考え抜く力の育成を目指します。
	進路指導	・将来のウェルビーイングのために希望する進路が実現できるよう、「生きる力」を身に付けるためのキャリア教育推進を目指します。
	生徒指導	・集団の中で主体的な行動ができ、他者の模範となる生徒の育成を目指します。
特別活動	・特別活動行事や部活動への積極的な参画を通じて、主体性、協働性、創造性の育成を目指します。	

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標
学習指導	・各教科で「探究的な学び」を実践し、生徒の主体的学習姿勢を育成	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート ・探究の発表やレポート ・外部模試の成績や共通テスト結果の分析 ・学校評価アンケートの結果 ・研修の実施状況
	・「探究的な学び」の実践のための授業改善研修を実施	施策Ⅳ-26	
進路指導	・自己の適性や可能性を理解し、現在の学びと将来とのつながりが実感できるような職業体験活動や講話を実施 キャリアガイダンスを実施	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部が企画する講座や課外活動への参加数と参加後の自己評価 ・卒業後の進路選択の分析 ・学校評価アンケートの結果
	・科学的探究活動や国際理解教育の機会充実のため、大学や専門機関等と連携した教育活動を企画・運営	施策Ⅱ-11	
生徒指導	・命の大切さを理解し、ヘルメット着用率向上に向けた啓発活動を実施	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全関係の啓発活動や全校集会の回数 ・意識啓発のための生徒指導通信の発行状況 ・学校評価アンケートや啓発活動実施後のアンケートによる生徒の意識変容の調査と分析
	・交通事故未然防止のため、昇降口付近に事故件数を掲示するなど視覚的な交通安全の啓発活動を推進	施策Ⅲ-19	
特別活動	・生徒が主体的に参加できる特別活動行事を通じてコミュニケーション能力とリーダーシップを育成	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果 ・行事実施後のアンケートによる生徒の充実度や参画への意識の変容の調査と分析
	・体育祭、文化祭の保護者との共同実施により、開かれた学校づくりを推進	施策Ⅰ-7	

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的学習姿勢の育成に向け、異教科の教員によるグループ研修を実施。 ・教員の授業改善を目的に外部から講師を招聘し、参加者中心型学修の研修を実施。 ・総合的な探究の時間の学びの成果を披露する学年発表会を実施。 ・生徒のグローバルな視野の育成と国際的な社会課題の探究を通じたリーダーの育成を図ることを目的に、希望者による海外研修（ベトナム）を実施。事前学習での主体的な学びと現地研修により語学等への意欲喚起を図った。 	A	<p>「探究的な学び」の深化を軸に、職員研修を継続して実施し、授業改善への教員の意識の高揚を図ることができた。</p> <p>教師の役割を「教える人」から「学びを支援する人」へ、生徒を「受け身」から「主体的に学ぶ存在」へと転換する意識改革を進めることができた。</p> <p>教員の意識改革の成果とスクールミッション（主体的・協働的な学び、探究推進、進路実現の支援）とをより結びつけ、教務部と進路指導部が連携して授業改善とキャリア教育を一体的に推進していくことが課題である。</p> <p>今年度初開催事業の海外研修を継続し、生徒のウェルビーイングと主体的な進路選択を支える教育活動へと発展させたい。</p>	B
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査だけではなく、外部模試などを通じて客観的な生徒の学力分析を行った。 ・昨年度に続き、生徒の興味・関心を高めキャリア教育につながるような土曜講座や放課後講座を実施した。 ・進路指導に関する学校評価の分析を実施した。 ・進路希望調査を年4回実施し、生徒の動向を把握するよう努めた。 ・卒業後の進路選択の分析を行うことができなかった。 	B	<p>学校評価アンケート（生徒）では「進路や将来について考える機会がある」という項目において、肯定的な回答が94%であった。一方で、「外部との連携を生かした教育活動に積極的である」という項目において、肯定的な回答が65%であり、昨年度から28%低下し、「わからない」という回答が昨年度から17%増加した。</p> <p>外部講師を招聘した講座の開講や、探究活動、学習ボランティアなど、外部との連携をさらに充実させ、生徒の満足感を高めるとともに、活動の周知につなげていきたい。</p> <p>今後も、生徒が主体的に進路を考え、進学先を選択できるよう、探究活動や進路ガイダンスを継続し、自己分析や進路選択を支援するワークショップの充実を図りたい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・乗車用ヘルメットの着用を義務化し、昨年度より着用率を2割程度向上させることができた。 ・交通ルールを周知するとともに、交通事故を未然に防ぐために大切なポイントを集会などで説明した。例年4月、5月は交通事故件数が多い傾向にあるが、今年度は昨年度と比較して大幅に事故の認知件数が減少した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・乗車用ヘルメットの着用を義務化し、着用率を向上させることはできたものの5割程度で停滞している。乗車用ヘルメットの着用が当たり前となるような価値観の育成が今後の課題である。 ・交通事故の認知件数が減少した。しかし、事故を起こした時に生徒が適切な対応ができなかったケースが複数確認されているため、未然防止教育を含め事故後の適切な対応を周知していく必要がある。 ・校則や社会規範から逸脱する問題行動は減少しているものの、心身の不調をきたす生徒が増加傾向にあるため、支援体制の強化を図りたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事において生徒会と各委員会が協働し、行事に主体的に取り組めた。特に体育祭・文化祭においては、スケジュールや内容を生徒主導で話し合い決定し、生徒主体で運営した。 ・体育祭では保護者が会場巡回と表彰を、文化祭では食品バザーと受付を担当し、開かれた学校を推進した。保護者との共同実施の様子を、来校された方に等身大で伝えることができた。 	A	<p>生徒同士で企画内容を練る中で、俯瞰して物を見る力や他者への配慮などといった精神を醸成することができた。体育祭、文化祭ともに形式は完成されつつあるが、安全面に配慮し、さらに生徒が運営上の課題を自ら改善し、主体的に取り組めるよう支援を図りたい。</p> <p>「生徒の学校生活が充実している」ことに対する賛同は約91%の保護者から得られているが、「生徒会活動の活発さ」に対しては約39%の保護者が「わからない」と回答している。学校行事において保護者の協力体制を構築し、さらなる行事の充実を図ることで活動の周知につなげていきたい。</p>	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年2月4日

<p><教務・進路指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「思考力・表現力・判断力」といった、非認知能力を客観的に可視化・データ化する評価ツールを活用し、学校教育目標と教科の授業、探究活動、キャリアサポートの一体的な接続を構築する。 ・探究的な学びにおいては、外部機関との連携を更に発展させ、生徒のキャリア選択の幅を広げられるような講座を開講するとともに今年度初めての開催となった海外研修のさらなる充実を図る。 ・本校の取り組みが可視化できるような広報活動の充実を図る。 <p><特別活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の質の向上を目指し、上級生がクラス活動の経験を伝える勉強会を開催するなど、さらに生徒が主体となった学校行事の充実を図る。 <p><生徒支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度から青切符が導入されるため、集会での講話だけでなく、生徒への資料配布や保護者への周知により、一層の交通規則等についての説明を丁寧に行う。 ・新入生への初期指導を徹底することで、年度を更新するたびに乗車用ヘルメットの着用率が向上するよう、継続的且つ計画的な指導を行い、次年度は着用率60%を目標とする。 ・心身の不調をきたす生徒が、早期段階で安心して過ごせる場所を整備するとともに、専門スタッフと連携した組織的な支援体制を図る。
--

学校関係者評価

実施日：令和8年2月4日

<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの文章量が非常に多く、教科書だけの授業では解答の限界がある。教科の学習と総合的な探究の時間の往還で身につけることのできる問題発見・解決能力は、まさに理に合っていると感じる。また、「情報」が共通テストに採用されるなど、AIが台頭する現代において、考える力を育む時間は必要である。 ・生きる力を育てるためにも、普段の授業の中に探究的な学びがあり、事象をより深めることができるのは理想である。 ・問題発見・解決能力を教科の授業で養うことは、共通テストの対応力の底上げに繋がる取組みである。 ・過去の可児高生がいちばん不得手としていたのが探究であると感じる。授業スタイルを構築する必要のある教職員はたいへんかと思うが生徒の知的好奇心に寄り添い、探究をアシストしてもらいたい。 ・教科の勉強時間に注力する生徒が多い学校であるからこそ、自分ひとりでもできるインプットより、体験型のアウトプットを探究を通して身につけさせてもらいたい。 ・大学進学を目的としている高校であり、探究を取入れた授業で身につけた力を、3年生の課程で大学進学に生かすことは、自然である。 ・2年次に取組んだ探究の内容をさらに深めたい生徒には、その取組み内容に近い教科の教員が指導をしていると聞いた。今後も生徒が興味を持ったことに取組ませてもらいたい。
